

念のため、心配だから…はダメ



かぜに抗生物質は必要なし

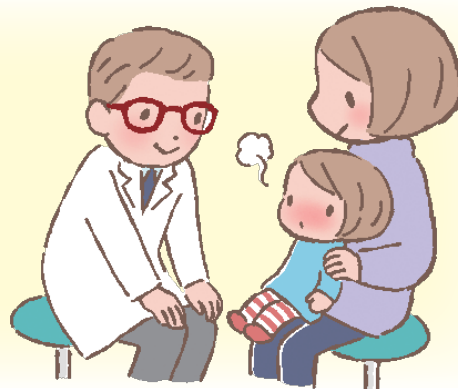
かぜをひいたときに「念のため抗生物質をください」と病院でお願いしたことはありませんか？この行動、実は耐性菌をひろげるリスクになるのです。

抗生物質のNG行動

- かぜをひくと抗生物質を医師に求める。
- 5日間のむように処方された抗生物質を3日でやめる。
- 以前もらった抗生物質をとって、調子が悪いときにのむ。

お子さんにはとくに注意を

子どもはよく熱を出しますが、発熱のたびに抗生物質を親の判断で使用したりすると、将来的に抗生物質が効くはずの病気にかかっても治らなくなってしまうことがあります。かかりつけ医とコミュニケーションをとり、本当に必要なときにだけ、指示された期間を守って抗生物質を服用させることが、子どもの健康を守ることにつながります。



かぜはウイルスが原因

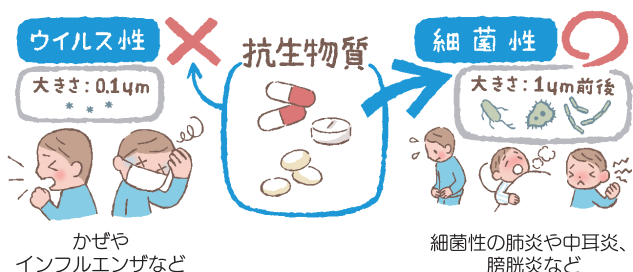
かぜは、ウイルスが鼻やのどから入って炎症を起こし、くしゃみや鼻水、せき、たん、のどの痛み、発熱などの症状が出ます。細菌ではなくウイルス感染によるもので、**抗生物質は効きません**。医師が処方する薬や市販のかぜ薬は、かぜのつらい症状を和らげるためのものです。



細菌感染とウイルス感染はちがう

感染症には、細菌によるものとウイルスによるものがあります。細菌はウイルスの約100倍の大きさで、大腸菌や肺炎球菌などが代表的です。抗生物質は細菌をターゲットに作られた薬で、細菌性の肺炎や中耳炎、膀胱炎などの治療に不可欠です。

一方、かぜやインフルエンザはウイルス性の感染症です。かぜウイルス自体をやっつける薬はありません。「抗生物質は強くてよく効く薬」だから「かぜにも効く」というのはまちがいです。



かぜで「予防的に抗生物質」は意味がない

かぜなどのウイルス感染症は、ときに二次的な細菌感染症を引き起こします。だからといって、予防的に抗生物質をのんでも効果はなく、かえって下痢などの副作用や耐性菌による感染症を引き起こすこともあります。かぜの症状が悪化したときはかかりつけ医に伝え、適切な治療を受けましょう。



抗生物質が効きにくい耐性菌が増えている

抗生物質をのむと抗生物質が効く細菌は死にますが、**抗生物質に耐性のある菌は生き残り、増殖します**。抗生物質を不適切に繰り返し服用することが、耐性菌が増える原因になります。こうして生まれた耐性菌が周囲の人々に感染していくと、**抗生物質の効かない感染症がひろがってしまうのです**。

耐性菌は増えており、何も対策をしないと2050年には全世界で1,000万人が薬剤耐性菌により死亡すると推計されています。

